

土木工事施工管理基準  
(新旧対比表)

大阪市建設局



## 総目次

土木工事施工管理基準	1
出来形管理基準	3
品質管理基準	93
写真管理基準	175



# 土木工事施工管理基準

(新旧対比表)



土木工事施工管理基準 新旧対比表

現 行	改 定 (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)	頁番号
土木工事施工管理基準	土木工事施工管理基準	
<p><b>4. 管理の実施</b>                      (1) 受注者は、工事施工前に、工事請負共通仕様書(道路・河川土木工事) <del>4編1章1節3</del> に規定する施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。</p>	<p><b>4. 管理の実施</b>                      (1) 受注者は、工事施工前に、工事請負共通仕様書(道路・河川土木工事) <u>共通編第1章第3節2項</u> に規定する施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。</p>	1
<p><b>5. 管理項目及び方法</b>  <b>(2) 出来形管理</b>                      3. 測定基準                      1) 施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所以上                      2) 施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所  <b>(3) 品質管理</b>                      4. 受注者は、舗装工事における<del>工種7</del>粒度調整路盤の試験項目締固め密度の測定において施工面積に応じた測定個数の中から、無作為に抽出した10個の測定値又は3個の測定により<math>X_{10}</math>、<math>X_3</math>を求めるものとする。                      また、<math>X_3</math>が規定値をはずれる場合は、さらに無作為に3個の測定値を加えた平均値<math>X_6</math>を求めるものとする。</p>	<p><b>5. 管理項目及び方法</b>  <b>(2) 出来形管理</b>                      3. 測定基準                      1) 施工延長40m(測点間隔<u>25m</u>の場合は50m)につき1箇所以上                      2) 施工延長40m(測点間隔<u>25m</u>の場合は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所  <b>(3) 品質管理</b>                      4. 受注者は、舗装工事における粒度調整路盤の試験項目締固め密度の測定において施工面積に応じた測定個数の中から、無作為に抽出した10個の測定値又は3個の測定により<math>X_{10}</math>、<math>X_3</math>を求めるものとする。                      また、<math>X_3</math>が規定値をはずれる場合は、さらに無作為に3個の測定値を加えた平均値<math>X_6</math>を求めるものとする。</p>	



# 出来形管理基準

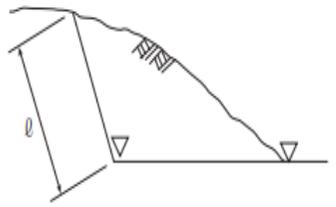
(新旧对比表)

施工管理基準及び規格値 新旧対比表

現 行

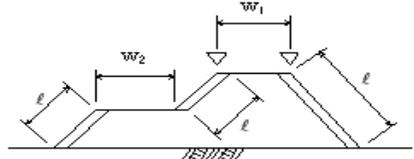
単位mm

単位mm

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
掘削工	基準高 ▽		±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	法長 l	$l < 5m$	-200			
		$l \geq 5m$	法長-4%			

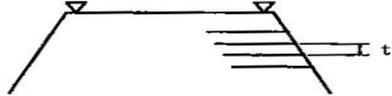
単位mm

単位mm

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
盛土工	基準高 ▽		-50	施工延長40m (測点間隔50mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法肩で測定。		
	法長 l	$l < 5m$	-100			
		$l \geq 5m$	法長-2%			
	幅	$w_1, w_2$	-100			

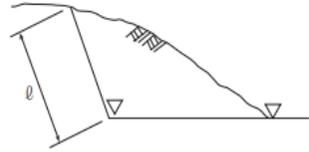
単位mm

単位mm

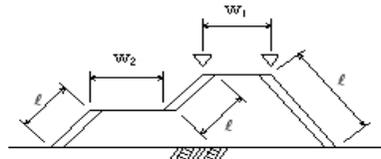
工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
盛土補強工	基準高 ▽		-50	施工延長40m (測点間隔50mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	厚 さ t		-50			
	控 え 長 さ		設計値以上			

改 定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

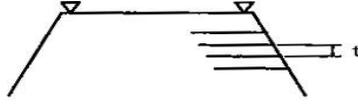
頁番号

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
掘削工	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
	法長 ℓ	ℓ < 5m				-200
	ℓ ≥ 5m	法長-4%				

単位mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
盛土工	基準高 ▽	-50	施工延長40m (測点間隔 <u>25m</u> の場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法肩で測定。			
	法長 ℓ	ℓ < 5m				-100
	ℓ ≥ 5m	法長-2%				
	幅 w1, w2	-100				

単位mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
盛土補強工	基準高 ▽	-50	施工延長40m (測点間隔 <u>25m</u> の場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	厚さ t	-50			
	控え長さ	設計値以上			

13

13

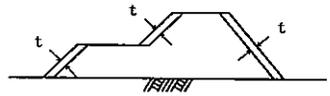
13

施工管理基準及び規格値 新旧対比表

現 行

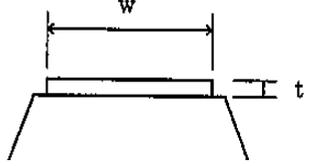
単位mm

単位mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
法面整形工（盛土部）	厚 さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔50mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定 ※土羽打ちのある場合に適用		

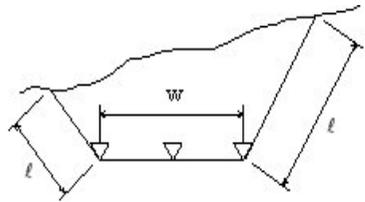
単位mm

単位mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
堤防天端工	厚さ t	t < 15cm	幅は、施工延長40m（測点間隔50mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。		
		t ≥ 15cm			
	幅 w	-100			

単位mm

単位mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
掘削工	基準高 ▽	±50	幅は、施工延長40m（測点間隔50mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。	▽：測定位置 		
	法長 ℓ	ℓ < 5m				-200
		ℓ ≥ 5m				法長-4%
	幅 w	-100				

改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

頁番号

単位: mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
法面整形工 (盛土部) <u>(河川土工)</u>	厚 さ t	※-30	施工延長40m (測点間隔 <u>25m</u> の場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2 箇所、法の中央で測定 ※土羽打ちのある場合に適用		

13

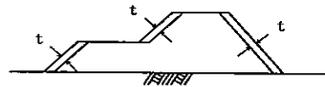
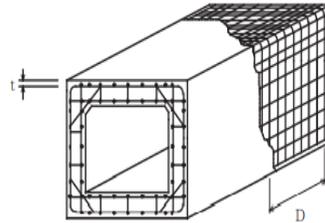
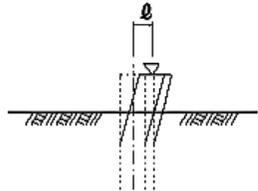
単位: mm						
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
堤防天端工	厚さ t	t < 15cm	-25	幅は、施工延長40m (測点間隔 <u>25m</u> の場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2 箇所。厚さは、施工延長200mにつき1 箇所、200m 以下は2 箇所、中央で測定。		
		t ≥ 15cm	-50			
	幅 w	-100				

13

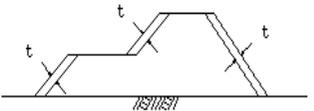
単位: mm						
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
<u>掘削工</u> <u>(道路土工)</u>	基準高 ▽	±50	幅は、施工延長40m (測点間隔 <u>25m</u> の場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2 箇所。厚さは、施工延長200mにつき1 箇所、200m 以下は2 箇所、中央で測定。	▽ : 測定位置 		
	法長 ℓ	ℓ < 5m				-200
		ℓ ≥ 5m				法長-4%
	幅 w	-100				

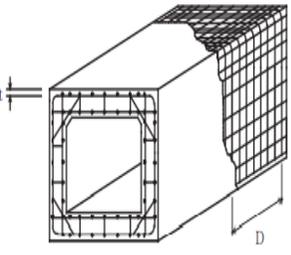
13

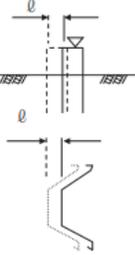
施工管理基準及び規格値 新旧対比表

現 行					
単位mm			単位mm		
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
法面整形工（盛土部）	厚 さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔50mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定 ※土羽打ちのある場合に適用		
単位mm			単位mm		
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
組立て	平均間隔 d	±φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径		
	かぶり t	±φ かつ最小かぶり以上			
	継手長	設定値以上			
単位mm			単位mm		
工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
矢板工 〔任意仮設は除く〕 （鋼矢板） （鋼管矢板） （軽量鋼矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔50mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔50mの場合は25m）につき1箇所。延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	根 入 長	設計値以上			
	変 位 ℓ	100			

改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤着色部)

単位:mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
法面整形工 (盛土部) <u>(道路土工)</u>	厚 さ t	※-30	施工延長40mにつき1箇所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用		

単位:mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
組立て	<u>平均間隔 d</u>	<u>±φ</u>	$d = \frac{D}{n-1}$ D: n本間の延長 n: 10本程度とする φ: 鉄筋径		
	<u>かぶり t</u>	<u>±φ</u> かつ最小かぶり以上			
	継手長	設定値以上			

単位:mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
矢板工 (任意仮設は除く) (鋼矢板) (鋼管矢板) (軽量鋼矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 ▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	根入長	設計値以上			
	変位 e	100			

施工管理基準及び規格値 新旧対比表

現 行

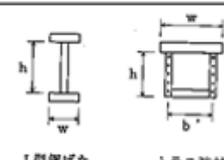
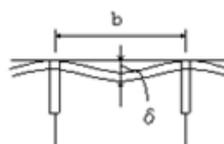
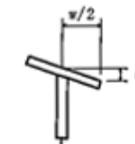
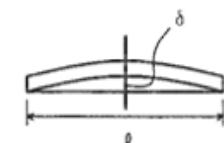
			単位mm				単位mm
工 種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	
植生工 (張芝工) (筋芝工) (人工張芝工) (植生穴工) (種子散布工) (市松芝工) (植生シート工・植生マット工) (植生筋工)	切土	$\ell < 5m$	-200	施工延長40mにつき1箇所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
		$\ell \geq 5m$	法長の-4%				

改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

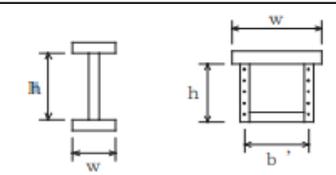
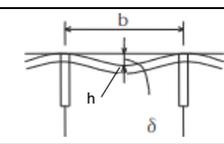
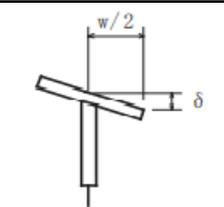
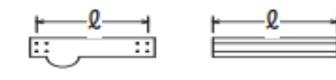
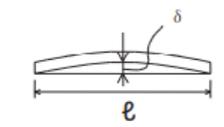
頁番号

単位:mm						
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
植生工 (張芝工) (筋芝工) (人工張芝工) (植生穴工) (種子散布工) (市松芝工) (植生シート工・植生マット工) (植生筋工)	切土法 長 ℓ	ℓ<5m	-200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		
		ℓ≥5m	法長の-4%			
	盛土法 長 ℓ	<u>ℓ&lt;5m</u>	<u>-100</u>			
		<u>ℓ≥5m</u>	<u>法長の-2%</u>			
		<u>延長L</u>	<u>-200</u>			<u>1施工箇所毎</u>

14

工 種	測定項目		規格値	測定基準		測定箇所	描 要
				鋼けた等	トラス、アーチ等		
桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)	部 材	フラジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m) 腹板間隔 $bb'$ (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼けた トラス部材		
		床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。					
	精 度	板の平面歪度 $\delta$ (mm)	鋼けた及びトラス等の部材の腹板	$h/250$	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 $h$ : 腹板高(mm) $b$ : 腹板又はワの間隔(mm) $w$ : フラジ幅(mm)		
			箱桁及びトラス等のフランジ鋼床板のデッキプレート	$b/150$			
			フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$W/200$			
		部 材 長 ℓ (m)	鋼けた	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。		
			トラス、アーチなど	$\pm 2 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 3 \cdots \ell > 10$			
		圧縮材の曲がり $\delta$ (mm)	$\ell / 1000$	主要部材全数を測定。 $\ell$ : 部材長(mm)			

改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

					単位mm		
工種	測定項目		規格値	測定基準		測定箇所	摘要
				鋼桁等	トラス・アーチ等		
桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) <u>(シミュレーション仮組立検査を行う場合)</u>	部材精度	フランジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m) 腹板間隔 $b'$ (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、 <u>JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。</u>		 I型鋼桁      トラス弦材	
		鋼桁及びトラス等の部材の腹板	$h/250$	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 $h$ : 腹板高 (mm) $b$ : 腹板又はリブの間隔 (mm) $w$ : フランジ幅 (mm)			
		箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$				
		フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$				
		鋼桁 トラス・アーチなど	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。 $\ell$ : 部材長 (mm)			
		圧縮材の曲がり $\delta$ (mm)	$\ell/1000$			-	
		※規格値の $w$ 、 $h$ 、 $b'$ に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 $\delta$ 、フランジの直角度 $\delta$ 、圧縮材の曲がり $\delta$ 」の規格値の $h$ 、 $b$ 、 $w$ 、 $\ell$ に代入する数値はmm単位の数値とする。					

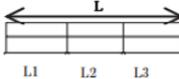
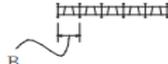
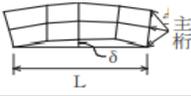
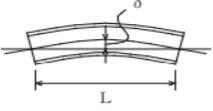
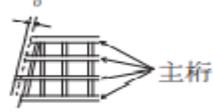
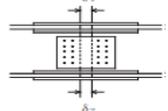
施工管理基準及び規格値 新旧対比表

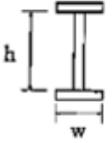
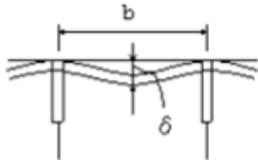
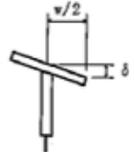
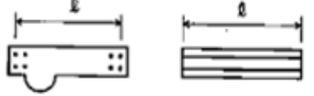
現 行

単位mm

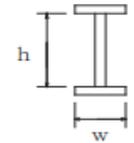
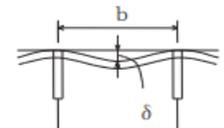
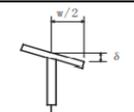
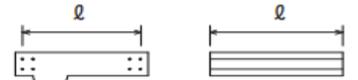
工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	挿 要	
			鋼けた等	トラス、アーチ等			
桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)	仮組立精度	全長、支間長 L(m)	$\pm (10+L/10)$	主桁、主構全数を測定。			
		主桁、主構の中心間距離 B(m)	$\pm 4 \cdot B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdot B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
		主構の組立高さ h(m)	$\pm 5 \cdot h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdot h > 5$	-	両端部及び中心部を測定。		
		主桁、主構の通り $\delta$ (mm)	$5+L/5 \cdot L \leq 100$ $25 \cdot L > 100$		最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。  L：測線上(m)		主げた
	仮組立精度	主桁、主構のそり $\delta$ (mm)	$-5 \sim +5 \cdot L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdot 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdot 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdot 80 < L \leq 200$	各主桁について10 ～12m間隔を測定。  L：主げたの 支間長(m)	各主構の各格点を 測定。  L：主構の支管長 (m)		
		主桁、主構の橋端における 出入差 $\delta$ (mm)	設計値 $\pm 10$	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。			主げた
		主桁、主構の鉛直度 $\delta$ (mm)	$3+h/1000$	各主桁の両端部を 測定。 h：主げたの高さ (mm)	支点及び支間中央 付近を測定。 h：主構の高さ (mm)		
		現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	設計値 $\pm 5$	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 $\delta_1, \delta_2$ のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合にはマイナスを認め ない。			
	<p>※規格値のL、B、hに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度<math>\delta</math>」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>						

改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	概要		
			鋼桁等	トラス・アーチ等				
桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) <u>(シミュレーション仮組立検査を行う場合)</u>	仮組立精度	全長 L (m) 支間長 <u>L<sub>n</sub> (m)</u>	$\pm (10+L/10)$ $\pm (10+L_n/10)$	各桁毎に全数測定。		単径間の場合  多径間の場合 		
		主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。				
		主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdots h > 5$	-	両端部及び中心部を測定。			
		主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L: 測線上 (m)				
		主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots 80 < L \leq 200$	各主桁について10～12m間隔を測定。 L: 主桁の支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L: 主構の支間長 (m)			
		主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	$\pm 10$	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。				
		主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1000$	各主桁の両端部を測定。 h: 主桁の高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h: 主構の高さ (mm)			
		現場継手部のすき間 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> (mm)	$\pm 5$	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。(例: 設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm～3mm)				
※規格値のL, <u>L<sub>n</sub></u> , B, hに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。								

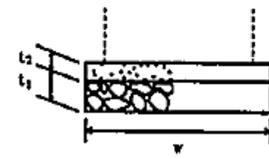
工 種	測定項目		規格値	測定基準		測定箇所	描 要	
				鋼けた等	トラス、アーチ等			
桁製作工 (仮組立による検査を実施しない場合)	フランジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m) 腹板間隔 $b'$ (m)		$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		 I型鋼けた		
	部 材 精 度	板の平面度 $\delta$ (mm)	鋼けた等の部材の腹板	$h/250$	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。  $h$ : 腹板高 (mm) $b$ : 腹板又はリブの間隔 (mm) $w$ : フランジ幅 (mm)			
			箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$				
			フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$				
		部材長	鋼けた	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	主要部材全数を測定。			
<p>※規格値のL、B、hに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度<math>\delta</math>」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>								

改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	概要	
			鋼桁等	トラス・アーチ等			
桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	部材精度	フランジ幅w (m) 腹板高h (m)	±2... w ≤ 0.5 ±3... 0.5 < w ≤ 1.0 ±4... 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)... 2.0 < w	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼桁		
		板の平面度 δ (mm)	h/250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)			
		箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b/150				
		フランジの直角度 δ (mm)	w/200				
		部材長 ℓ (m)	鋼桁	±3... ℓ ≤ 10 ±4... ℓ > 10	主要部材全数を測定。		
<p>※規格値のw, <u>h</u>, <u>ℓ</u> に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ、フランジの直角度 δ」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>							

施工管理基準及び規格値 新旧対比表

現 行

単位mm			単位mm		
工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を越えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	工場塗装終了時に測定。ただし、工場で上塗りまで塗装する場合は、上塗り終了時にも測定。なお、鋼道路橋塗装・防食便覧にいうC塗装系の場合は、無機ジンクリッチペイントの塗装後にも測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
単位mm			単位mm		
工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74 「表-Ⅱ.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して各塗料の必要量を求め塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)、塗布作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。1ロットの大きさは500㎡とする。		
単位mm			単位mm		
工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり基礎工) (均しコンクリート)	幅 W	設計値以上	施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	厚 さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	設計値以上			
	延 長 L	各構造物の規格値による			

改 定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

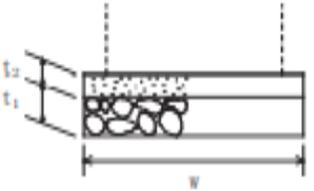
頁番号

単位:mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
工場塗装工	塗膜厚 (μm)	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	<u>外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定</u> <u>1ロットの大きさは、500㎡とする。</u> <u>1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。</u>		

20

単位:mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
コンクリート面塗装工	塗料使用量	<u>鋼道路橋防食便覧Ⅱ-82</u> 「表Ⅱ.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(缶缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		

20

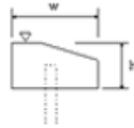
単位:mm					
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長40m (測点間隔 <u>25m</u> の場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	厚さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	設計値以上			
	延長 L	各構造物の規格値による			

20

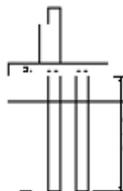
施工管理基準及び規格値 新旧対比表

現 行

単位mm

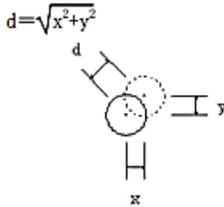
工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
基礎工（護岸） （現場打）	基 準 高 ▽	± 30	施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	幅 W	- 30			
	高 さ h	- 30			
	延 長 L	- 200			

単位mm

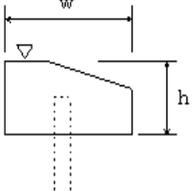
工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
基礎工（護岸） （プレキャスト）	基 準 高 ▽	± 30	施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	延 長 L	- 200			

単位mm

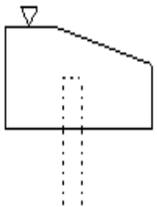
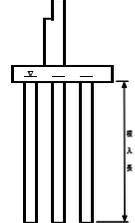
単位mm

工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。		
	根 入 長	設計値以上			
	偏 心 量 d	D/4以内かつ100以内			
	傾 斜	1/100以内			

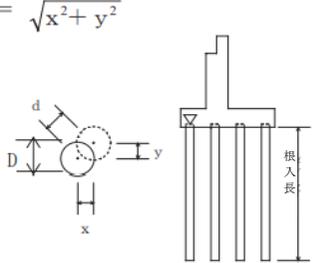
改定' (変更箇所は赤字下線付き及び赤色着色部)

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
基礎工 (護岸) (現場打)	基準高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	幅 W	-30			
	高さ h	-30			
	延長 L	-200			

単位:mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基準高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	延長 L	-200			

単位:mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
	根入長	設計値以上			
	偏心量 d	D/4以内かつ100以内			
	傾斜	1/100以内			
	<u>抗径D</u>	<u>設計値以上</u>			

単位:mm